

## 第五章 調査ノ方針

現今行ハルル水力ノ利用ニハ數種ノ方法アレトモ其ノ最適切ナルハ河川、湖沼等ノ水ヲ利用スルニアリ、即チ是等ノ水ニシテ高位ニアルモノヲ人工的ニ落下セシメテ水力ヲ發生シ之ヲ電力ニ化シテ遠距離ノ需要地ニ輸送スルモノナリ。本調査ハ斯ノ如キ方法ニ依リテ發生シ得ヘキ水力ノ調査ヲ行フモノニシテ全國ニ互リ各河川ヲ踏査シ最經濟的ニ利用シ得ヘシト認ムル水力地點ノ選定ヲ行ヒ是等ノ河川ニ就キ夫々調査ニ必要ナル設備ヲ施セリ。而シテ水力地點ノ選定ハ河川ノ渦水時ニ於テ一千瓦力以上ヲ發生シ得ヘキモノノミニ就テ之ヲ行ヒ既ニ水力ノ使用ヲ許可セラレタル水力地點ニ對シテハ唯其ノ關係セル事項ニ就テノミ調査ヲ行フコトトシタリ

凡ソ水力發生ノ要素ハ之ヲ分チテ水量及落差ノ二トス。彼上ノ水力利用ニアリテハ水量ハ常ニ變動スルモノニシテ之カ的確ナル資料ヲ得ントセハ必スヤ長期ニ互リテ其ノ調査ヲ遂ケサルヘカラサルカ故ニ本省ニ於テハ調査開始以來水力利用上有望ナル河川ニハ直ニ測水所ヲ設定シ

テ測水作業ヲ開始シ河川流量ニ關シテ精密ナル査定ヲ行ハンコトヲ期セリ。尙近時水力電氣事業ハ其ノ發達ト共ニ益河川ノ水力ヲ有利ニ利用セントシ當ニ其ノ渦水量ニ止マラスソレ以上ノ水量ヲ使用スルノ趨勢ニ向ヒタルニ依リ本調査ニ於テハ河川ノ渦水量ノミナラス更ニ多量ナル水量ノ調査ヲ行ヒ以テ電氣工業ノ用ニ供セラルヘキ水力ヲ調査セリ

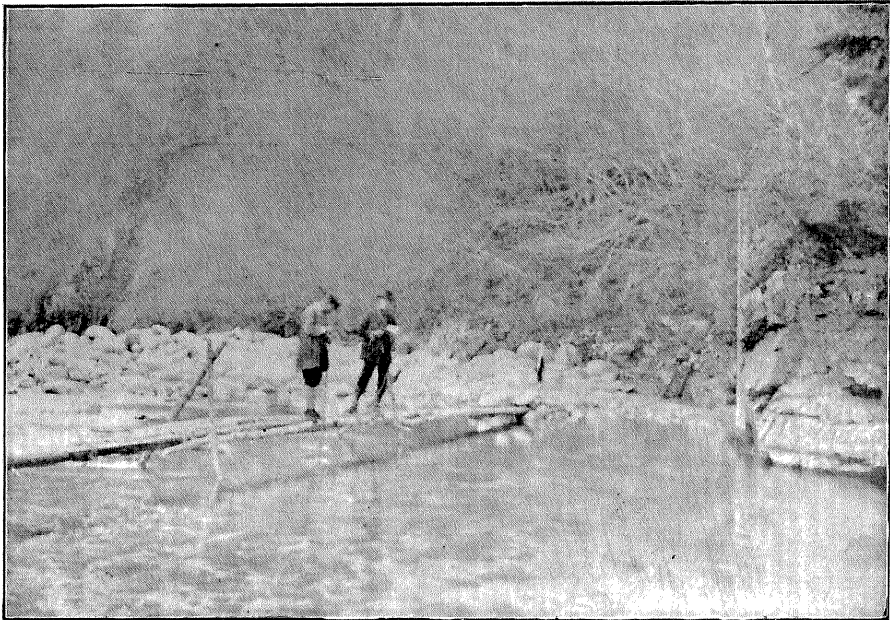
又河川流量ノ變化ハ水源地ノ森林、地質並氣象等ノ状態ニ依リテ左右セラルルモノナルカ故ニ一面直接ニ流量ヲ調査スルト同時ニ其ノ主要原因タル雨雪ノ量、蒸發量、大氣ノ溫度、風向、風力並森林、地質等ニ關シテモ亦努メテ之カ調査ヲ行ヒ以テ流量査定ノ資料ニ供シタリ

水力地點ニ於ケル落差ハ一度之ヲ測定スレハ殆ト不變ノモノナレトモ之カ開發利用ニ際シテハ事業ノ種類計畫ノ規模ニ依リ種々變更セラルヘキモノナルノミナラス其ノ調査ハ必要ニ應シ多クハ時期ヲ選ハスシテ短期間ニ之ヲ完了シ得ルモノナルヲ以テ本調査ニ於テハ落差ノ調査ハ之カ利用方法ノ比較研究ニ對スル資料ヲ得ル程度トシ水力利用上有利ナル範圍ニ互リ河川縱斷測量ヲ行ヒ縱斷面圖ヲ作製セリ

測水作業(吊箱及假橋)

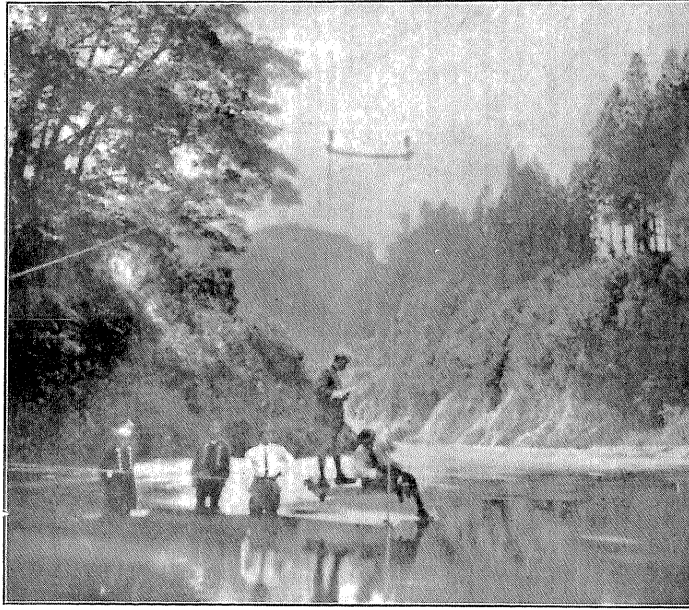


九頭龍川水系足羽川 松ヶ谷測水所

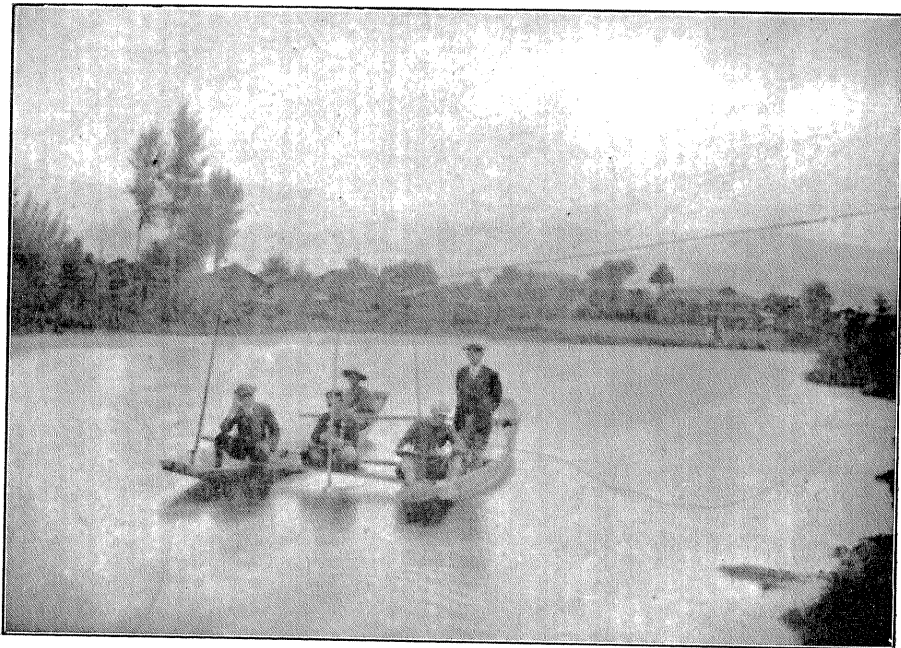


富士川水系笛吹川 廣瀬測水所

測 水 作 業



信濃川水系破間川 須原測水所



信濃川水系魚野川 六日町測水所